



## 資料1

# 乳がん超音波検査導入後の 検診結果

令和2年(2020年)9月23日  
がん対策部会

# 1 平成30年度以降の月別乳がん検診の受診者数

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	979	1,098	1,609	1,441	1,212	855	1,202	1,717	10,113
令和元年度	1,010	1,289	1,410	1,368	1,240	1,134	1,400	1,483	10,334
令和元年度 (マンモのみ)	480	478	559	585	491	419	533	484	4,029
令和元年度※1 (マンモ+エコー)	530	811	851	783	749	715	867	999	6,305

※1 エコーの受診割合:61.0%

## ○まとめ

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた3月の受診者数は、大幅に減少した。
- 乳エコーを開始した令和元年8月以降の受診者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、前年同月分の受診数と比較して、微増であった。
- 全体の受診者のうち乳エコーを受けた割合は、約6割であった。

## 2 一次検診結果の年度比較

	受診者数	要精検者	要精検率※2
平成29年度	13,309	741	5.6%
平成30年度	13,321	816	6.1%
令和元年度 (マンモのみ)	6,557	330	5.0%
令和元年度 (マンモ+エコー)	6,305	302	4.8%

※2 国の指標値:11.0%以下

### ○まとめ

- 乳エコーを追加して受診した場合、要精検率は上がることを想定していたが、令和元年度の数値の上昇はみられなかった。
- 国の指標値を上回った年度はなかった。

### 3 要精検者の精密検査受診結果

	要精検者	精検受診者数	精検受診率※3	侵襲的検査率※4	がん発見者	陽性反応的中度※5	がん発見率※6
平成29年度	741	467	63.0%	31.8%	28	6.0%	0.21%
平成30年度	816	525	64.3%	35.8%	52	9.9%	0.39%
令和元年度	632	441	69.8%	60.7%	42	9.5%	0.41%
令和元年度 (マンモのみ)	330	213	64.5%	39.1%	12	5.6%	0.18%
令和元年度 (マンモ+エコー)	302	228	75.5%	86.5%	30	13.2%	0.48%

#

# p<0.05  
がん発見率に  
有意差があった。

※3 国の指標値:80%以上

※4 侵襲的検査率:精密検査時に「組織診または穿刺細胞診」を受けた者の割合

※5 国の指標値:2.5%以上

※6 国の指標値:0.23%以上

#### ○まとめ

- ・乳エコーを受けた方がマンモのみと比較して、J-STARTと同様にがん発見率や陽性反応的中度は高かった。
- ・乳エコーを受けて要精検となり、身体に侵襲を伴う「組織診または穿刺細胞診」を受けた方は、マンモのみで要精検となった方より40%程度高かった。
- ・精検受診率は、いずれの年度も国の指標値を上回ることはなかったが、エコー受診者はマンモのみと比較して10%ほど高かった。